学部4回生・大学院生のための

フルテキスト入手法

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ②

2025.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当（参考調査カウンタ）

皆さんこんにちは。
e-learning教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」をご覧いただき、ありがとうございます。
タイトルには「4回生・大学院生」とありますが、この教材は学生だけでなく、新しく大阪大学にいらした教職員の方にとっても役立つ内容になっています。

「卒論・研究きちんとスタート！」シリーズのラインナップ

①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る

②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する

図書館Webサイトにてe-learning教材を公開中！

2

「卒論・研究きちんとスタート！」シリーズは2つの教材で構成されています。

1つ目は「学部4回生・大学院生のための日本語論文探索のキソ」です。
文献検索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のこと）を入手する方法を学びます。主に人文・社会科学系の方向けの内容です。図書館のWebサイトでe-learning教材を公開中です。興味のある方はぜひごらんください。

2つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」です。
文献の書誌情報をもとに、論文の本文を実際に入手する方法について詳しく学びます。

本講習会の目標

学習目標：

大阪大学の環境で論文フルテキストを入手する方法を理解し、
必要な論文を入手できる

3

この教材の目標は、大阪大学の環境で論文フルテキストを入手する方法を理解し、必要な論文を入手できるようになることです。

論文にもいろいろな種類がありますが、今回は雑誌論文にフォーカスした内容になっています。
日本語論文・英語論文のどちらにも活用できる方法です。

本講習会の構成

1. 二つの予備知識
2. シチュエーション1：参考文献リストの情報から
3. シチュエーション2：論文データベース検索結果から
4. ILLサービス
5. 自宅や出張先からフルテキストへ

補遺.

教材の構成は、このような形になっています。
2つのシチュエーションから、論文フルテキスト入手の実際を紹介していきます。

1.二つの予備知識

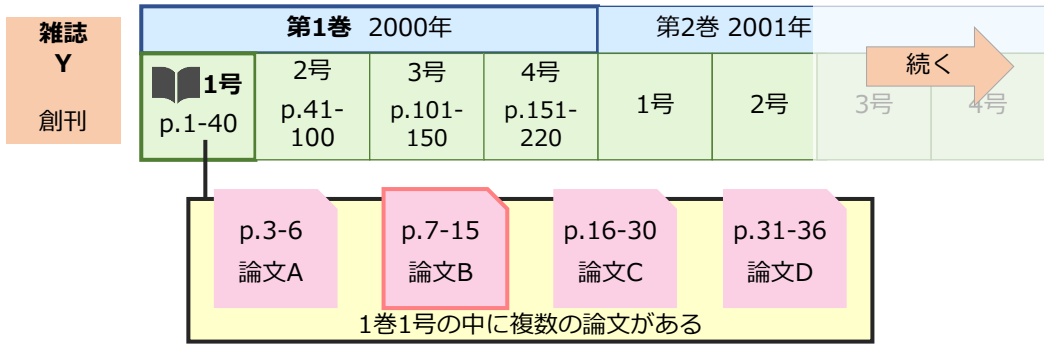
まずは、予備知識を2つご紹介します。

予備知識1：雑誌と論文の関係性

雑誌1号の中に複数の論文が入っている、という構造

冊子の雑誌でも、オンラインの雑誌でも基本的には変わらない

論文Bは「雑誌Yの1巻1号のp.7-15に掲載されている論文」と表現できる
＝論文の住所のようなもの。入手するときの大きな手掛かりになる



6

1つ目は、雑誌と論文の関係性です。
雑誌には紙の雑誌と電子ジャーナルの2種類がありますが、今から説明することは両方に共通しています。

雑誌1冊、ひとつの号の中には、複数の論文が掲載されています。
そして多くの雑誌では、複数の号が「巻」という単位にまとめられます。巻数は、たいてい1年ごとに1つ増えていきます。

特定の雑誌1冊を指すときには、「1巻1号」のように、巻と号の2つの数字を組み合わせて表現します。

この図では、ある雑誌Yの構造を表しています。
第1巻は、1号から4号まであります。それぞれの号の中に複数の論文が含まれており、例えば1号には4つの論文が掲載されています。
ここで論文Bは、「雑誌Yの1巻1号の7ページから15ページに掲載されている論文」と言うことができます。
これは論文の住所のようなもので、論文の入手にあたり非常に重要な手がかりとなります。論文を入手するためには、巻・号・ページの情報が必要、と覚えてください。

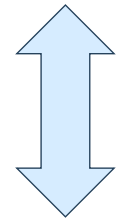
予備知識2：論文入手の3つの手段

①電子ジャーナルをダウンロード

②大阪大学が所蔵する紙の雑誌をコピー

③ ILLサービス

複写を取寄せ、他機関へ訪問利用



ラク・早い・安い

手間・時間・お金がかかる

★*POINT*

①→②→③の順番に入手可否を確認しましょう
入手の必要性に応じて、どの手段までとるか考えましょう

7

2つ目の予備知識です。
論文の全文、つまりフルテキストを手に入れる手段は、大きく分けて3つあります。

まず、電子ジャーナルからPDFをダウンロードする方法があります。Web上でフルテキストを確認できるので、これが一番早くて効率的です。まずは電子ジャーナルがあるかどうか確認しましょう。
電子ジャーナルがなければ、2番目の手段です。紙の雑誌が阪大にあるかどうかを確認しましょう。阪大にあれば、雑誌の現物から論文をコピーすることができますね。特に、古い論文についてはこの手段を取ることが多いです。
阪大に紙の雑誌もない場合には、3番目の手段に移りましょう。他の大学の図書館などから論文のコピーを送ってもらう、という手段があります。これをILLサービスといいます。

必要とする論文がすべて電子ジャーナルで入手可能であれば理想的ですが、現時点ではそのような環境は整っていないのが実情です。
紙の雑誌からのコピーや、ILLサービスも選択肢として頭に入れておいてください。